

提言 2

文化的背景の違いを超えて様々な国の文化の担い手が育つよう、多文化理解を深めることができる取組を充実させること

主旨	内容
<p>多文化を尊重する意識啓発</p>	<p>文化を上手に使い、国籍や立場を超えて互いに理解を深めていくための道具になると思う。</p>
	<p>文化というのは、実際は体で体験して学ばないと分からないものがある。</p>
	<p>文化を学ぶことが、互いのコミュニケーションの勉強になる。</p>
	<p>文化を伝えるときは、本質やほんまもんを伝えることが大事。</p>
	<p>日本に住む外国人も、文化体験を通して日本のことを理解できる。</p>
	<p>文化の違いを超えて、どうやってその本質を伝え合っていくかということが多文化共生には大事。</p>
	<p>多文化交流のためには、伝統文化と若者をつなぐアプローチが必要。</p>
	<p>留学生の中には、日本の文化に触れたくて日本語を学びに来ているという人もいるので、日本語を学びながらお茶やお花が学べるようにするなど、日本の伝統文化を若者に伝えていけるとよい。</p>
<p>福祉の充実</p>	<p>高齢者にとっては、自分のルーツに関わる文化に触れると懐かしく思う。必ずしも高齢者同士であれば安心、つまり中国帰国者高齢者なら日本人の高齢者と一緒にいれば孤立化しない、というわけではない。文化の違いによる支援の在り方を変える必要がある。</p>
	<p>医療現場での多文化教育も必要。この人は、もしかしたら日本語ができないかもしれない、母国の食べ物と違うものだから食べられないのかもしれないといった想像力を持つ必要がある。</p>
	<p>日本語ができないために支援が必要な被介護者がどれくらいいるのか、といった統計はない。調査が必要。</p>